



Press Room Quick Links

[News](#)
[Press Contacts](#)
[Awards](#)
[Tradeshows/Events](#)
[Videos](#)
[投資家](#)

About IDT Quick Links

[Careers](#)
[Lead-Free Definition](#)
[Company Overview](#)
[Contact IDT](#)
[IDT Green Product Packaging](#)
[Executive Team](#)
[輸出/出荷](#)
[Additional Information](#)
[グリーン/ RoHS](#)
[投資家](#)
[Quality / Reliability](#)
[Corporate Responsibility & Citizenship](#)
[Accessibility and Accommodations](#)
[California Transparency in Supply Chains Act Disclosure](#)
[Conflict Minerals Policy](#)
[EHB \(Embedded Host Bridges\)](#)
[Environmental Policy](#)
[Health and Safety Policy](#)

IDT、CERNのLHCやデータセンターにおける データ解析の高速化・性能向上を実現する 低レイテンシRapidIOプラットフォームを、CERNオープンラボと共同開発

3年計画の最初の成果として、優れた実績を誇るIDTの高性能テクノロジーをベースとする新プラットフォームが誕生

IDT®社（Integrated Device Technology, Inc.、本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、NASDAQ：IDTI）は本日、欧州原子核研究機構（CERN）とのコラボレーションを通じて、同機構の大型ハドロン衝突型加速器（LHC）やデータセンターにおけるデータ管理やデータ解析の高速化・性能向上を実現する低レイテンシプラットフォームを開発したことを発表しました。IDTのRapidIO®テクノロジーをベースにIDTのOpen HPAC Labで開発された新プラットフォームは、今年3月に発表されたIDTとCERNオープンラボの3年契約のコラボレーションがもたらした最初の大きな成果となります。

CERNオープンラボは、個性的な官民パートナーシップで、世界規模のLHCコミュニティや広範な科学研究に向けた最先端ソリューションの開発促進を目的としています。CERNはこのオープンラボを通じて、世界をリードする情報通信技術（ICT）企業や各種研究機関とコラボレーションを進めています。

CERNオープンラボの代表を務めるAlberto Di Meglio氏は、次のように述べています。「データ解析の処理性能を高めるには、リアルタイム応答性に優れた低レイテンシの高性能インターコネクが欠かせません。CERNとIDTのコラボレーションの最初の成果である新プラットフォームは、各種インターコネクとプロセッサリソースを最適な形で利用できる基礎となるコンピューティングプラットフォームで、将来的にCERNの解析データの使い方を改善する拡張性も備えています」

世界で最も大きく強力な粒子加速器であるLHCは、さまざまな実験を通じて大量のデータを収集します。そのため、あらゆる面でデータの収集能力と解析能力を高める必要があり、それが今回のコラボレーションの原動力となっています。LHCでは、検出器ごとに1秒あたり億単位の衝突が発生し、1秒あたりおよそ1PB（ペタバイト）のデータが生成されます。このデータは、宇宙の根源的な謎を解き明かそうと取り組むCERNにとって極めて重要な意味を持ちます。

RapidIOテクノロジーは、低レイテンシの接続を実現し、コンピュータプロセッサのクラス間でリアルタイム応答性に優れたデータ転送を可能にします。そのため、データの移動と処理が劇的にスピードアップします。新プラットフォームは、x86プロセッシング、200GBaud RapidIOインターコネクトファブリック、IDTの低消費電力RapidIOネットワークインターフェースカード、CERNのROOT解析フレームワークを基礎としています。最初の成果となる今回のプラットフォームは、ノードが少ない場合を対象に開発されていますが、はるかに大量のノードを含むラックスケールの規模にも拡張可能です。

3年計画の今後のフェーズにおいて、IDTとCERNは、最適化された性能を備えた大規模なコンピューティングシステムを開発し、ラックスケールの低レイテンシ処理能力システムを使用したデータ解析を実現する予定です。

IDTの最高技術責任者（CTO）兼グローバルオペレーションズ部門担当バイスプレジデントであるSailesh Chittipeddiは、次のように述べています。「IDTは、CERNオープンラボとのコラボレーションを通じて、プログラマブルなリアルタイムのミツシヨククリティカルなデータ解析の実装を目指しています。今回開発されたRapidIO対応データ解析プラットフォームは、CERNで実施されている重要な研究で生まれるすべてのデータを最大限に活用するための最初の大きな一歩です」

4G基地局で広く利用されているIDTの低レイテンシRapidIO製品は、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）やデータセンターの分野においても、リアルタイムのデータ解析とデータ管理を実現します。

RapidIO対応小規模ノード向け解析プラットフォームの詳細は、2016年第1四半期に提供を開始する予定です。詳細については、SRIO@idt.comまでメールでお問い合わせください。大規模ノード向けの解析プラットフォームについては、1U 19インチラックスケールソリューションが2016年第1四半期にProdrive Technologies（www.prodrive-technologies.com）から提供される予定です。Open HPAC Labの解析技術や各種プロジェクトの詳細については、http://www.idt.com/landing/open-hpac-labをご覧ください。

IDT社について

IDT社（Integrated Device Technology, Inc.）は、顧客の用途に最適化したシステムレベルのソリューションを開発します。タイミング、シリアル・スイッチ、インタフェース、アナログやシステムに関する専門技術で市場のリーダーシップをとっています。これら技術を利用して、通信、コンピュータ、民生用電子機器の分野で、特定の用途に完全に最適化したミックスド・シグナル半導体のソリューションを提供しています。本社は、米国カリフォルニア州サンノゼ、世界中に設計、製造、販売の拠点があります。IDT社の株式はNASDAQ Global Select Stock Market®市場で取引されています。証券コードは「IDTI」。IDTに関する詳しい情報はwww.idt.comをご覧ください。Facebook、LinkedIn、Twitter、YouTube、Google+でもお調べいただけます。



IDTおよびIDTのロゴは、Integrated Device Technology Inc.の商標または登録商標です。製品やサービスを特定するために使用されるその他のブランド名、製品名、マークは、各所有者の商標または登録商標の場合があります。

《本プレスリリースに関するお問合せ先》

日本アイ・ディー・ティー（IDT）合同会社

〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9 野村不動産芝大門ビル6F

マーケティング コミュニケーションズ 本田 真由美

TEL: 03-6453-3039 FAX: 03-6453-3011 E-mail: mayumi.honda@idt.com